

特集

生産コスト上昇に対する 対策を決定！

「営農継続に向けた対策」と
「消費者への理解醸成・
販売促進に向けた対策」

J A全農あおもり



海外原料価格の高騰等により、農畜産物の生産コストは著しく増高し、組合員の生産意欲の減退に伴う離農が懸念されている。

「農業現場における生産コスト増高の現状について、消費者への理解醸成をはかるとともに、営農継続に向けた対策を講じ、組合員の農業経営を支援したい」

このため、J A全農あおもり（以下、県本部）は8月9日、青森市の県農協会館で開いた運営委員会、生産コスト上昇に対する対策を決定した。

■ 営農継続に向けた対策

一つ目は『営農継続に向けた対策』として、令和3年産主食用米のうち県本部への委託米について、未販売分を県本部が全量買取することを決めた。買取予定数量は約2万トンの見通しで、総額約36億円。主食用米の早期精算による生産者への支援が目的。

■ 理解醸成・販売促進に向けた対策

また、消費者への『理解醸成・販売促進に向けた対策』の1つとして手掛けたのは、7月31日か

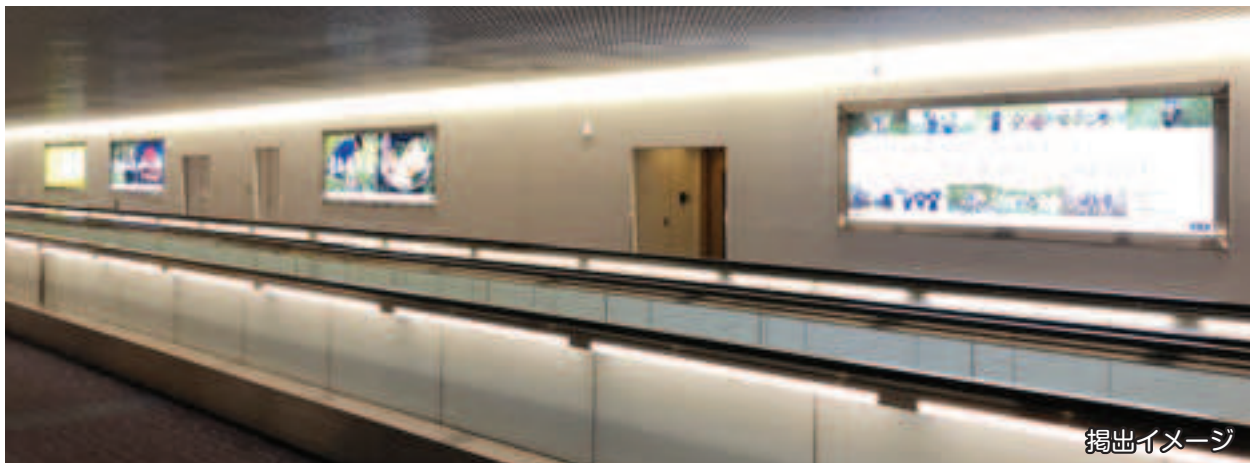
ら羽田空港第1ターミナルに掲出した4枚の看板。農家応援メッセージ・米・りんご・やさいの4枚を連続して掲出し、県産品を大々的にアピールしている。場所は2階北ウィングのコンコース「動く歩道」脇の壁。

1枚目は、生産者の笑顔とともに「農家を続けていくことは大変です。でも、食べてもらおうと頑張れます。」というメッセージつき。組合員が自身で生産した農産物を手にし、消費者に訴えかけるような工夫を施した。

生産量全国1位を誇るりんごや、やさいをデザインした2枚には「青森県産 だから、うまい」と作り手の情熱や想いが伝わる内容に。4枚目の米は、今年10月デビューする新品種「はれわたり」を加え、同時期にリニューアル予定だ。

りんごの看板に登場するJ Aつがる弘前の組合員・山形言之さんは「1人でも多くの人が現状を理解し、県産品を手取る人が増えると嬉しい。それが農家の励みに繋がる」と意気込む。

この他、キャッチフレーズ「食べて応援!! まるごと青森」を様々なイベントに活用した消費宣伝活動の拡充や、海外における青森県産フェア開催により、需給改善や販売価格の底上げをはかるとしている。



掲出イメージ



メッセージの看板



りんごの看板



やさいの看板



米の看板

※現在掲出している看板であり、「はれわたり」の米袋デザイン確定後の10月下旬に掛け替え予定。

フラッシュ

JA青森



5年で人気じわじわ浸透

都内でバサラコーン特別販売(8/9)

東京都赤坂のアンテナショップ「AoMoLink ~赤坂~」で、浪岡地区のブランドトウモロコシ「バサラコーン」を8月9日~12日、17日~20日に特別販売した。特別販売は今年で5年目。

同店ホームページやSNSで販売告知をするとリピーターからすぐに予約が入り、販売初日も開店直後から地元客やビジネスマンの購入が相次いだ。

JAごしょつがる



りんご防除講習 SS事故防止へ注意点確認(7/27)

JAごしょつがるりんご共防連は、五所川原市の中央りんごセンターで第4回薬剤散布検討会およびスピードプレーヤー(SS)安全講習を開催し、各共防連組織のオペレーターら33人が出席した。

腐らん病は見つけ次第、速やかに適切な処置を行うよう呼びかけ、実際にSS車両を使用した点検や操作の注意点を説明した。

第4回 巡回講座を開催(8/26)

JA相馬村は管内12ヶ所で第4回巡回講座を開催した。中南地域県民局、同JA農業振興課の職員より害虫防除や葉つき・除袋のポイント、農作業安全などについて確認があった。2022年産のサンつがるは9万箱の取扱を目指す。

JAつがるにしきた



夏秋トマト講習会 1果でも多く出荷を(8/22)

JAつがるにしきたは、トマト現地栽培講習会を管内2カ所で開催した。中泊町中里地区のほ場には、生産者、JA関係者ら12人が参加し、ホルモン処理や摘心の注意点、今後の病虫害防除について確認した。

西北地域県民局の担当が「最低気温が16℃以下は、ハウスのサイドを下げて保温する。病虫害防除の管理を行い、1果でも多く出荷を」とアドバイスした。

JAつがる弘前



軽トラ市開催 地産地消を目指して(8/6)

JAつがる弘前は、本店駐車場で、軽トラ市を開いた。

軽トラ市は今年で4年目、消費者と出店者が直接交流を深めながら、地産地消の拡大を目指す。

出店者自らが栽培した旬の野菜や果物、手作り雑貨などが軽トラの荷台に並んだほか、米袋を再利用したエコバッグ作り体験コーナーやJAバンク、JA子ども共済相談コーナーなども設置した。

JA相馬村





JA津軽みらい

特産品のプレゼント企画実施（8/23）

JA津軽みらいは、管内の特産品「津軽の桃」と「ときわにんにく」のプレゼント企画の抽選を実施し、「津軽の桃」、「ときわにんにく」が各50人に当選した。

今回の企画は、コロナ禍でも消費者へ津軽の桃と、ときわにんにくのおいしさを伝えるのが目的。当選者には「津軽の桃（川中島白桃）」1箱と津軽の桃のロゴ入り布マスク1枚、「ときわにんにく」1箱と、ときわにんにくのロゴ入りタオル1枚を贈る。



JAゆうき青森

パレイショ種子 供給に向けて収量調査実施（8/22）

野菜振興会種子部会ばれいしょ種子部門は、六ヶ所村のほ場にて、今年度出荷用の採種と来年度植付用の原種を掘り取りし、生産者と営農購買課職員で規格ごとに重量を調査した。

今年の生育は前半が乾燥、後半が天候不順のため、生育は平年に比べ玉数が多く小ぶり傾向であった。



JA十和田おいらせ

JA十和田おいらせ

パパッと振って食べてけろー

CM風動画でPR

パパッと振って食べてけろー（8/24）

JA十和田おいらせは、管内産ニンニク100%の加工品「プレミアムにんにくパウダー」のCM動画を制作した。出演者はJA職員とその家族で、食卓やオフィスでの食事などの場面で、「パパッと振って食べてけろー」の呼びかけで消費拡大を狙う。

やさい販売課と企画広報課が構成から演出、撮影、編集を行った。動画は1分程度4本。



JAおいらせ

適期追肥で新芋の肥大促す ナガイモ現地検討会（8/2）
JAおいらせやさい推進委員会ナガイモ部会三沢地区は、三沢市のJAナガイモ採種圃で第2回ナガイモ現地検討会を開いた。上北地域農業普及振興室三沢分室の担当が、生育状況と栽培管理のポイントを説明し、適期の追肥、予防防除の徹底を呼びかけた。
生産者には、栽培管理の重点項目をリストにした生産技術チェックシートが配られた。

新人職員の農作業体験（8/20）

JA八戸は、五戸町倉石のほ場で新人職員の農作業体験を行い、入組1年目～4年目の職員3人がピーマンの収穫作業などを体験した。

職員は収穫したピーマンを参考にし、大きさや形を確認し収穫、茎を適当な長さに切り揃え、「収穫は手作業で思った以上に手間がかかり大変。植え付けから体験してみたい」と話した。



JA八戸

「JAグループ青森令和4年8月豪雨災害対策本部」を設置

JAグループ青森は8月24日、県連代表者による常参会議を開き、「JAグループ青森令和4年8月豪雨災害対策本部」の設置を決めた。

津軽地区を中心にほぼ県内全域で3日および9日～11日の断続的な大雨の影響により河川が増水・氾濫。農作物等への浸水・冠水被害が甚大となっている。

同対策本部はJA青森中央会に事務局を設置し、作物別等の被害状況の把握、被災農家への支援策、行政等に対する要請活動を実施していく。



▲看板を設置したJA青森中央会の雪田徹会長

令和4年8月豪雨災害に関する県知事要請

JA青森中央会の会長で、県農協農政対策委員会の雪田徹委員長は8月31日、県知事に「令和4年8月豪雨災害に関する要請」を行った。要請内容は、①農地・農道等の復旧対策②冠水被害のりんご・やさい対策③被災農家対策④被災作物の消費対策の4項目。

8月3日からの断続的な大雨に伴う河川の増水・氾濫は、ほぼ県内全域で大きな被害となり、いまだ災害の全容が見えず影響が長期化することが予想される。このままだと産地の維持に支障をきたしかねず、農業経営の安定化に向けた支援の強化が必要となるため要請を行った。

雪田委員長の要請に対応した県農林水産部の赤平次郎部長は「国や市町村と協力しながら速やかに対応したい。ナガイモやゴボウ等の被害状況は



▲赤平部長に要請書を手渡した雪田委員長（右から2人目）

JAと連携し早期全容把握を行い支援の検討をする。また、国が過去に講じた台風や豪雨の支援策を本県にも行うよう働きかけていく。さらには県独自の対策も講じていく」と述べた。

東北北海道地区JA女性組織協議会リーダーおよびフレッシュミズリーダー合同研修会

東北北海道地区JA女性組織協議会は8月23日・24日の2日間、東北北海道地区JA女性組織協議会リーダーおよびフレッシュミズリーダー合同研修会を八戸市で開き、東北6県と北海道の女性部員ら約120人が出席した。

同研修会は、東北6県と北海道持ち回りで毎年行われていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で実開催は3年ぶりとなる。

同協議会の洞口ひろみ会長は「各地区の部員同士が対面交流できる貴重なこの場を、時間の許す限り有意義に過ごしてほしい」とあいさつした。

組織活動発表では各道県から推薦された7人が発表。応援する部員らは拍手や手作りのうちわで熱心にエールをおくっていた。結果は、JAと女性部が一体となった活動が地域に波及し貢献されていることが評価され「私たちが支えるおらほの農協」の題目で発表した、JA秋田やまもとの近藤きぬ子さんが最優秀賞を受賞。

研修会では、一般社団法人家の光協会による「持ち寄り読書」の紹介とJA全中の情勢報告のほか、館鼻岸壁朝市公認アイドル「pacchi」のミニコンサートや五所川原市出身のディオグループ「サエラ」による記念コンサートが行われた。



▲組織活動発表で最優秀賞を受賞した近藤さん（前列㊤）

第2回きらきらサークル研修会

県JA女性組織協議会は8月8日、青森市の県農協会館で組織強化・拡大を目的とした、第2回きらきらサークル研修会を開き約70人が参加した。

同協議会の成田縫子会長は「第1回に続き、人気のひょうたんランプ作りの研修会。今回は夏休み時期で子供たちも大勢参加しているので、夏休みの思い出を作っていってほしい」とあいさつした。

講師は第1回に続き、奥入瀬モスボール工場の起田高志さんが上手に作るポイントを実演を交えながら参加者に丁寧に説明した。

参加者は形の異なるひょうたんの中から好みの形を選び、下書きや穴あけの作業に熱心に取り組み、自作の「ひょうたんランプ」作りを楽しんでいた。

参加した子供からは「初めて作ったけど楽しかった。暗くなってから部屋で明かりを点けるのが楽しみ」と笑顔で話していた。



▲作り方を教える起田高志さん

第3回りんご栽培技術現地研修会

J A青森中央会は8月4日、弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター藤崎農場でリンゴ栽培技術研修会を開き、新規就農者や若手営農指導員ら7人が参加した。

3回目となる今回も、同学部の林田大志助教が講師を務め、リンゴ栽培での病害虫防除とスピードスプレイヤー等農業機械の取扱と保守について座学と園地での講義を行った。

病害虫防除について、防除暦を守ることや常にほ場や樹木をきれいに保つ、被害がでた葉や果実、樹木は適切な処理をし、ほ場に放置せず集めて処理するよう指導が行なわれた。

また、草刈り機やスピードスプレイヤーは、使用時のメンテナンスに加え、定期的なエンジンオイルやエアフィルターの点検を行うよう呼びかけた。



▲草刈機のメンテナンスについて学ぶ参加者

J A直売所キャンペーン 開催!

J A青森中央会は、県内のJ A直売所を訪れたお客様に、抽選で県産牛肉などをプレゼントする「J A直売所キャンペーン」を9月3日から10月31日まで開催している。

キャンペーンの詳細はJ A青森中央会のホームページにて。

(<https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>)

行事 (9/10~10/10)

- 9月
- 13~14日 認証上級準備研修会 (WEB併催) (県農協会館)
 - 21~22日 監督者研修会 (第2回) (トラック協会)
 - 27日 令和4年度J A職員合同採用試験 (県農協会館)
 - 27日 J A事務リスク研修会 (県農協会館)
 - 28~29日 次世代リーダー育成研修会・パワーポイント研修会・修了レポート作成研修会 ((株)青森原燃テクノロジーセンター)
- 10月
- 3~5日 内部監査士検定試験準備研修会 (WEB併催) パート1 (県農協会館)

2022年10月から県内全JAでiDeCo(イデコ)の取扱いを開始

JAバンク青森では、2022年10月1日から県内全JAでiDeCoの取扱いを開始する（JAおいらせ・JA八戸は2022年4月から先行実施済）。

iDeCoとは、個人が任意で加入する個人型確定拠出年金の愛称で、20歳以上65歳未満の公的年金の被保険者の方が加入できる私的年金制度。

毎月の掛金は5,000円から設定可能。自らが選んだ金融商品で運用し、運用結果で将来の受取額が決まる。原則60歳になるまで途中で引き出しや脱退はできないが、掛金全額が所得控除となるなど、税制上のメリットがある。

基本的に20歳以上65歳未満のすべての公的年金被保険者の方が加入できるほか、厚生年金に加入している方は20歳未満でも加入が可能。ただし、農業者年金加入者、自営業者等で国民年金の保険料免除者等は加入できない。また、企業型確定拠出年金に加入している方は、規約でiDeCoへの加入が認められている場合のみ加入できる。）

iDeCoの税制上のメリットは次の3つ。

- ① 拠出時
 - ・掛金が全額所得控除されるため、課税所得が減り、所得税や住民税が軽減される。
- ② 運用時
 - ・運用益も非課税で再投資される。
- ③ 受け取り時
 - ・受け取るときも税制優遇措置がある。

JAバンクがみずほ銀行と業務提携して取り扱う「JAバンクのiDeCo（みずほプラン）」は、商品のラインアップが豊富なことに加え、商品選びも運用サポートツール「SMART FOLIO<DC>」で自分にあった資産の組み合わせを簡単に診断できる。

また、資産残高や運用状況はホームページですぐでも確認できるほか、商品情報や各種シミュレーションも充実している。

「老後に向けて賢く備えたい。」「税制優遇を活用しながら積み立てたい。」という方は、まずは下の「iDeCoの加入条件」をチェックし、この機会にぜひご加入を。

詳しいお問い合わせは、お近くのJA窓口まで。

種別	iDeCoの加入条件
第1号被保険者  パート社員やアルバイトでも、厚生年金保険に加入しておらず、配偶者に扶養されていなければ該当	・日本国内に住所を有する20歳以上60歳未満の自営業者とその家族、自由業、農業者、学生など 加入できないケース <ul style="list-style-type: none"> ・農業者年金の被保険者 ・国民年金の保険料を全額免除^{*1}、一部免除、学生納付特別、納付猶予の者
第2号被保険者  厚生年金保険の加入者(サラリーマン、公務員だけでなく、会社社長やアルバイトで該当する人もいます)	・60歳未満の厚生年金保険の被保険者、共済組合の組合員(厚生年金保険の被保険者であれば20歳未満でも加入できます) ^{*2} 加入できないケース <ul style="list-style-type: none"> ・規約にてiDeCoの加入を認めていない企業型DCプランの加入者
第3号被保険者  厚生年金保険に加入しておらず、配偶者に扶養されているパート社員などが該当	・20歳以上60歳未満の第2号被保険者の被扶養配偶者 「年収130万円の壁」を乗り越えて勤務時間を調整している専業主婦(夫)など
国民年金の任意加入者  国民年金への加入義務はないが任意で加入している方	・60歳までに老齢基礎年金の受給資格を満たしていない場合や40年の納付済期間がないため、老齢基礎年金を満額受給できない場合などで、60歳以降も国民年金に任意加入している方 ・また外国に居住する20歳以上65歳未満の日本人で国民年金に任意加入している方

*1 国民年金保険料の全額免除者であっても、障害基礎年金の受給権者や厚生労働省令で定める高齢者等は加入できません。

*2 企業型DC(上記の「加入できないケース」を除く)、厚生年金基金、確定給付企業年金、石炭鉱業年金基金、国庫公債員共済組合、地方公務員共済組合、私立学校教職員共済制度に加入している場合も加入できます。

行事(9/10~10/10)

農林中央金庫		9月		10月	
15日	JAバンク青森運営協議会専門委員会(*)	1日	第51回信用事業業務検定試験(県農協会館)	5~6日	JAバンク青森アカデミー第7期「管理職コース」(アップルパレス青森)
16日	マネロン・テロ資金供与対策および相談苦情等対応態勢定着に向けた県説明会(*)	6~7日	統一事務手続研修<貯金編>(*)		
27~28日	相続実務研修(*)				

(*)はウェブ会議

L Pガス器具取扱研修会

JA全農あおもりは7月20日、青森市の県農協会館でLPガス器具取扱研修会を開き、県内JA・JA子会社からSS担当者ら16名が参加した。

研修会では、株式会社パロマやリンナイ株式会社の担当者が実物を用いながら商品の特徴や使い方を解説した。

今年の6月1日に発売したガスコンロの新商品「CREAPD-962シリーズ」は、グリルのオート機能が万能。トーストなどに便利な「焼網オート」機能もあり、より料理を楽しめる商品だ。この他、衣類乾燥機、光合成促進機などを紹介。参加者は、得た知識を現場の営業活動に活かしていく。

全農あおもり営農購買部の三浦強次長は、「商品知識を身につけていただき、毎年実施されるLPガス器具のキャンペーンに活かし、販売力強化に繋げて欲しい」と話した。



▲講習を受ける参加者

青森県花の共進会

JA全農あおもりは7月22日、青森市の県観光物産館アスパムで「第48回青森県花の共進会」の審査を実施した。

県内の花き生産者からトルコギキョウ、アルストロメリア、ディスバッドマムなど計115点の出品があり、最優秀賞（農林水産大臣賞）にJAつがるにしきたの小見山晴雄さんが出品したトルコギキョウ（ハピネスホワイト）が選ばれた。

共進会は県産花きを広く県民に紹介し消費拡大を図るとともに、優れた花きを展示・評価することで生産者の生産意欲高揚と栽培技術の向上を目

的にしている。

最優秀賞以外の上位入賞者は次の通り。

▽優秀賞＝木村昭弘（アルストロメリア・青森市）千沢正知（トルコギキョウ・JA八戸）佐野純一（輪ギク・同）

▽金賞＝藤森光明（輪ギク・JAごしょつがる）出町圭吾（グラジオラス・青森市）水梨良文（ディスバッドマム・JA八戸）福地秀俊（ひまわり・JA津軽みらい）古川次男（アルストロメリア・JA津軽みらい）名古屋正浩（スターチス・JA青森）澤田健吾（かすみ草・JAつがるにしきた）



▲県産花きを審査する関係者ら

t b c夏まつり2022

JA全農あおもりと青森米本部は、7月23、24日の2日間、仙台市の勾当台公園と市民広場で開かれたt b c東北放送が運営するイベント「t b c夏まつり2022」に出展した。夏野菜の詰め放題や特A米「青天の霹靂」、冷たいジュースなどを販売した。

ブースには、ミス・クリーンライスあおもりの



▲生放送番組で県産品をPRする2人（川崎さん㊦、工藤さん㊧）

川崎美夏さんと青森いきいきやさいレディの工藤泉紀さんも参加し、商品をPR。23日には同局の生放送番組に出演し、県産米や旬の野菜についてアピールした。

特に夏野菜の詰め放題や冷たいジュースが好評で、2日目早々に完売となった。税込500円以上購入の方には、ジュース1本またはパックごはん1個をプレゼントした。

すいか・メロンフェア

JA全農あおもりは7月30、31日の2日間、青森県内のスーパーで「すいか・メロンフェア」を開いた。マエダストア・イオン・マックスバリュ、のべ8店舗で開き、今が旬のすいかやメロンをPRした。

マエダストア5店舗では試食を実施し、来店客に1口大にカットした食べ頃のすいか・メロンを



▲旬のすいかを試食する来店客

提供した。試食した客は「暑いのですいかが食べたいかなる」などと話していた。

マエダストアガーラモール店の気田武彦青果チーフは「暑いのですいかがが人気。メロンはお盆にかけて需要が増える見込み」と話すとともに「県産のすいか・メロンを多くの人に食べてもらいたい」と意気込んだ。

牛乳ごっくんキャンペーン第1弾 開催中!



詳しくはこちら



行事 (9/10~10/10)

9月

13~14日 JA-SS新任所長・所長代理講習会 (ウェディングプラザアラスカ、青森県総合社会教育センター)

毎月放送! 「Fresh Vegetable」

7月29日放送

JAつがるにしきた「トマト」



放送内容は
こちら



8月12日放送

JAごしょつがる「輪ギク」



放送内容は
こちら



8月26日放送

JA八戸「ピーマン」



放送内容は
こちら



今後の放送スケジュール 夕方6時56分から!

- ・9月23日 JAつがる弘前「トマト」
- ・10月7日 JA青森「ミニトマト」

JA共済健やか隊員育成研修の開催

JA共済連青森は7月15日、「JA共済健やか隊員育成研修」を県農協会館で開催した。

農家組合員とその家族および地域住民に向けて、積極的に健康づくり活動を推進する健康リーダーを育成することを目的とし、開催された。

午前は、県による青森県健康経営認定制度の説明や、弘前大学大学院医学研究科の中路重之特任教授による健康教養について講義が行われた。

午前最後のプログラムに健康度測定が行われ、体組成、骨密度、血圧、立ち上がりテストを行い自分の体力と健康器具の操作方法等について学んだ。

昼食には健康弁当が配られ、弘前大学院医学研究科の徳田糸代先生より、食べる順番や献立の詳細について説明を受け食事について学んだ。

午後は、食事や運動についての講義があり、参加者全員で体を動かし知識を深めた。ワークショップでは、参加者が各自の職場の課題と、その改善案を考え、各々の職場で実践することを発表した。



▲講義を行う中路特任教授



▲健康度測定を行う参加者



▲運動を行う参加者



行事 (9/10~10/10)

9月

- 14日 共済担当部課長会議 (県農協会館)
- 17日 JA共済交通安全フェスティバル (道の駅なみおか アップルヒル)
- 18日 JA共済交通安全フェスティバル (ファーマーズマーケットかだあ〜れ)
- 24日 書道・交通安全ポスターコンクール審査会 (県農協会館)

10月

- 4日 JA共済きずなの青い森プロジェクト (平内町)
- 5日 共済事業担当常勤理事会議
- 6日 生命共済JA審査員有資格者研修会【1回目】(県農協会館)

肥料価格高騰対策のごあんない

～肥料価格高騰に直面する農家の皆様を支援します～

肥料価格の高騰による農業経営への影響緩和のため、化学肥料の低減に向けて取り組む農業者の皆様の肥料費を支援します。

支援の対象となる肥料

令和4年6月から令和5年5月に購入した肥料(本年の秋肥と来年の春肥として使用する肥料)が対象です。



支援の内容

化学肥料低減の取組を行った上で前年度から増加した肥料費について、その7割を支援金として交付します。

$$\text{支援金} = \left(\text{当年の肥料費} - \frac{\text{当年の肥料費} + \text{価格上昇率} + \text{使用量低減率}}{\text{肥料単価}} \times 0.9 \right) \times 0.7$$

申請に必要なもの

次の2つがあれば申請できます。

- 1 本年秋肥(令和4年6月～10月に注文)、来年春肥(令和4年11月～令和5年5月に注文)の購入価格がわかるもの(注文票など)
本年秋肥と来年春肥は、それぞれをまとめて、別々に申請してください。
注文票のほか、領収書または請求書が必要です。
- 2 化学肥料低減に向けた取組に2つ以上取り組むこと
(チェックシートで申告していただきます。)

申請方法

農業者グループで申請してください。申請先や申請期限は、都道府県・市町村、またはお近くの農協、肥料販売店にお問い合わせください。

〔5戸以上のグループで申請してください。農協や肥料販売店などでまとめてグループ申請していただくことを想定しています。〕

農林水産省ホームページにおいて、解説動画を掲載しておりますので、是非ご覧ください！



肥料価格高騰対策事業



組織農政通信

肥料価格高騰対策事業について ～施肥量の低減に向けた取り組みを前提に補填～

農水省が肥料高騰に対する支援策を決定した。一定の施肥低減を前提に、コスト上昇分の7割を補填する。ウクライナ危機などを背景に肥料価格が上がる中、農家の負担軽減へ、政府は7月29日、2022年度予算の予備費から788億円を充てることを閣議決定し、制度の詳細を発表した。6～10月に出回る秋肥と、11月～来年5月に出回る春肥を対象とした。

農家が支援を受けるには、化学肥料の2割以上の低減に今後2年間で取り組むことが条件となる。一方で、施肥の低減量が厳密に評価されるわけではなく、同省が決めたメニューの中から二つ以上の項目に取り組むことで、条件を満たしたこととする。メニューは、土壌診断に基づく施肥設計や堆肥の利用等15項目の中から選択する。こうしたメニューにすでに取り組んでいる農家は、例えば堆肥の施用面積を広げるなど、取り組みを強化すれば認められる。

補填金の額は、①当年の肥料費 ②施肥コストの低減率 ③前年からの肥料価格の上昇率から算定する。当年の肥料費から、当年の肥料費を施肥コスト低減率と肥料価格上昇率で割った値を差し引く。差し引いた値に「0.7」を掛けた数字が補填額となる。肥料費は、各農家の肥料の領収書や請求書などの証拠書類から把握、施肥コストの低減率は「0.9」で固定する。肥料価格の上昇率は、同省が「農作物価統計」を基に今後決定される。肥料の価格改定は、「令和4年秋肥と令和5年春肥の年2回」、「年1回」の2つのパターンがあるため、それぞれ価格上昇率（計3つ）を定めることを想定している。

農家が、補填金を受ける際は、JAなど農業関連組織を通じて都道府県ごとに設ける協議会に、5人以上の農業者グループ単位（JA、JAの支所、JAの営農部会、肥料販売事業者などが取り組み実施者となって、参加農業者の申請を取りまとめて一括申請することを想定）で申請する形となる。どんな施肥低減のメニューを実践するかの手帳や、肥料費の証拠書類などが必要となる。

いずれにしても、同省には農家の円滑な申請と申請事務に関わるJAなど関連組織の負担が膨らまないよう配慮しつつ、制度の詳細が分かりやすく丁寧に生産現場に伝わることを望みたい。なお、同事業の内容詳細については、8月上旬（8月5、10、12日）に行われた「肥料価格高騰対策事業に係る説明会」の資料等を参考にしていきたい。

肥料価格高騰対策事業の補填額の計算例

■計算式

$$\left(\text{当年の肥料費} - \left(\frac{\text{当年の肥料費}}{\frac{\text{価格上昇率}}{\frac{\text{コスト}}{\text{低減率}}}} \right) \right) \times 0.7 = \text{補填額}$$

※1

■試算値

仮定

- ・当年の肥料費「100万円」
- ・価格上昇率「1.7倍」

$$\left(100 \text{万円} - \left(\frac{100 \text{万円}}{1.7 \div 0.9} \right) \right) \times 0.7 = 24.2 \text{万円}$$

※2

※1. 当年と前年の農作物価統計から算出
※2. 小数点第二位以下を四捨五入している

(中央会 農業対策部)

経営の窓口

法改正に伴う個人情報の漏えい等が発生した場合の初動対応について

1. はじめに

令和4年4月1日より、個人情報保護法の改正、およびそれに伴う農協法施行規則等の改正により、情報¹または個人データ²が漏えい・滅失・毀損（以下「漏えい等」という）した場合の報告義務が下のとおりとなった。

(1) 個人データの漏えい等により、個人の権利利益を害するおそれ大きい事態*が生じた場合は、行政庁への報告および本人への通知が法律上義務付けられた。

「個人の権利利益を害するおそれ大きい事態」とは

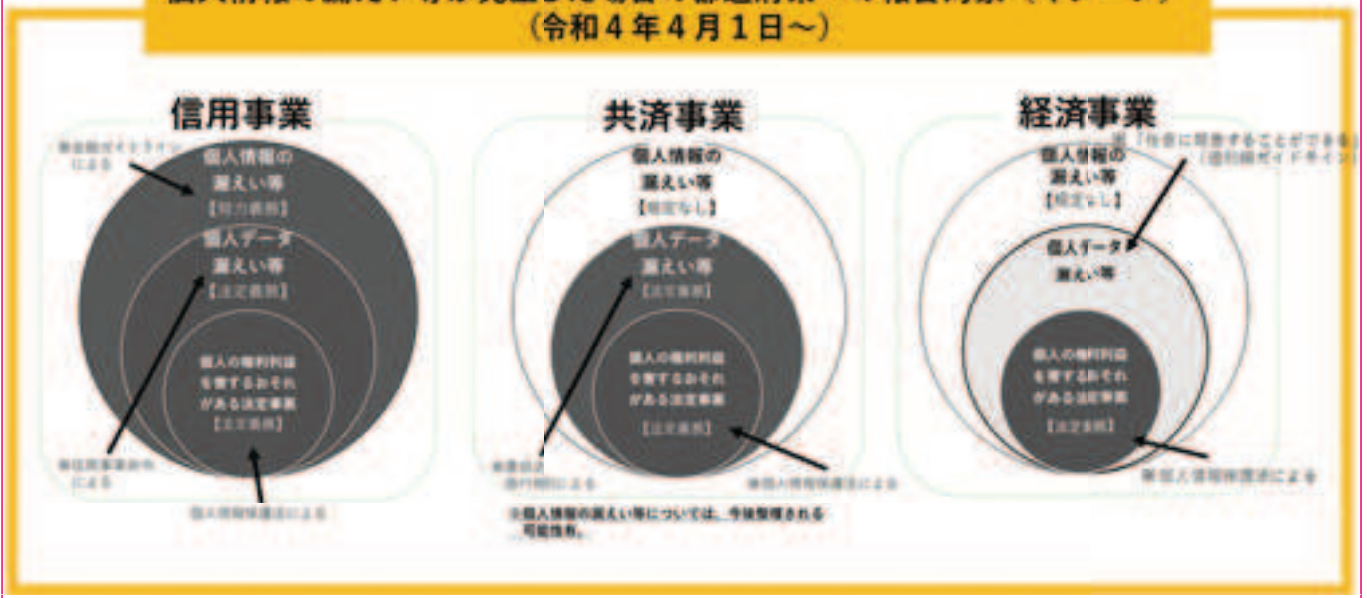
- ① 要配慮個人情報が含まれる個人データの漏えい等が発生し、又は発生したおそれがある事態
- ② 不正に利用されることにより財産的被害が生じるおそれがある個人データの漏えい等が発生、又は発生したおそれがある事態
例：クレジットカード番号が含まれる個人データの漏えい等
- ③ 不正の目的をもって行われたおそれがある個人データの漏えい等が発生し、又は発生したおそれがある事態
例：不正アクセスによる個人データの漏えい、個人データが記載された書類等の盗難、従業員による個人データの不正持出し・第三者提供等
- ④ 個人データに係る本人の数が千人を超える漏えい等が発生し、又は発生したおそれがある事態

(2) 信用事業・共済事業に関し、利用者に関する個人データの漏えい等が発生した場合は、行政庁への報告が必要となった。

(※信用事業においては、個人情報の漏えい等についても行政庁への報告が必要。)

(3) 特定個人情報（マイナンバー）の漏えい等により、個人の権利侵害のおそれ大きいものについても、行政庁への報告および本人への通知が法律上義務付けられた。

個人情報の漏えい等が発生した場合の都道府県への報告対象（イメージ） （令和4年4月1日～）



2. 個人情報の漏えい等が発生した場合の初動対応について

一定の個人情報の漏えい等が発生した場合の報告には期限が定められ、概ね3～5日以内に速報を行い、30日以内に確報を行う必要がある。仮に漏えい等が発生した場合、発生部署で慎重な対応を行っている間に、速報報告期限を過ぎてしまうようなことがあれば、そのこと自体が法違反として行政指導等にもつながるリスクがある。このため、JAにおいては発生把握後、リスク管理部署まで直ちに報告が行われる体制構築が必要と考えられる。

また本人への通知についても、明確な期限は示されていないが、事態を把握した後で速やかに行う必要があり、併せて中央会・連合会への報告も忘れずにお願いしたい。

3. さいごに

個人情報の漏えいについては、尼崎市民の個人情報の入ったUSBメモリが紛失したというニュースは今でも記憶に新しいだろう。個人情報の漏えいに関しては、世間的にも関心が高くなっており、仮に同程度の事案が発生した場合には、JAの信用は一気に地に堕ちかねない。

第29回JA青森県大会で掲げた「持続可能な地域共生社会」を実現するためにも、JAでは個人情報の取扱いルールの周知・徹底など、個人情報を漏えいさせない対策に取り組む必要がある。

- 1 個人を特定することができる、氏名・生年月日・顔画像などといった情報。
- 2 個人情報の中で、データベース化され容易に検索できる状態になっているもの。

(中央会 経営対策部)

つながりあう先に、未来はある。 私たちは信じます。






一人ひとりがつながり、互いに支え合い、誰ひとり取り残すことなく、未来へつないでいく。そして、みんなの暮らしを良くしていく。JAの協同組合精神と、SDGsの理念は深いつながりがあります。

地域に根ざし、地域と共に歩んできたJAグループの取り組みは、これまでと何も変わりません。世界中がSDGsの目標達成に向けて力を尽くす中、私たちの取り組みはさらに大きな意味と責任を持ちます。

JAグループは一体となって、食と農を基軸とした総合事業のサービスを提供し、地域の食・農・暮らしがいつまでも持続可能であるように、皆さんと共に歩んでいきます。決して無くしてはいけないものを、しっかりと未来につないでいきます。豊かで暮らしやすい地域共生社会の実現に向けて、地域の皆さんと、手を取り合って。



JAグループが取り組む、地域に根差した活動

 あんしん	日本の食の安全・安心に努めています	 だいち	地域の農業をコーディネートしています	 くらし	豊かで安定した暮らしをサポートしています
 たすけあい	高齢者や家族の生活・健康を支えています	 みどり	日本の美しい自然・環境を農業で支えています	 みらい	子どもたちに食と農の大切さを伝えています



耕そう、大地と地域の未来。JAグループ

Q JAグループ



実践 農業者支援

新規就農者支援体制の強化について

第29回 J A 青森県大会において、J A グループ青森では、「食料・農業基盤の確立」を重点目標として掲げ、新規就農者の育成・確保に取り組むこととしている。具体的には「新規就農者支援パッケージによる新規就農育成・確保支援」、「事業承継による後継者確保支援」を通じて、青森県全体で年間300名以上の新規就農者の育成・確保を目指すとともに、J A が関与する新規就農者数の増加を目指す。

今回は、これまでの新規就農者支援の取組みと今後の実施内容を紹介する。

1. 新規就農者支援パッケージ策定と実践による受入体制の強化

募集、研修、就農、定着までの支援体系である「県版新規就農者支援パッケージ」をもとに、希望する J A での策定を支援している。

令和3年度では、新規就農希望者が取り組み易い作物に特化した支援内容を織り込んだ「J A 版新規就農者支援パッケージ」の策定を2 J A において支援した。

(1) 新規就農者支援パッケージの主な構成内容

①やるべし青森農業!!

就農を目指す希望者に対し、適切に進むべき道を指南するツール

②就農についての心構え

就農にあたっての心構え、簡単な手続き、農地の確保方法等の一覧

③新規就農希望者に対する支援基本パッケージ

(ア) 「募集」⇒「研修」⇒「就農」⇒「定着」に関する一連の流れ

(イ) 新規就農希望者の行動段階毎に、各関係機関のサポート内容

(ウ) 行政等による金銭的な支援・補助内容

(エ) J A としてのサポートや行政等の研修支援内容

④作物別支援パッケージ

(ア) J A が推進する新規就農希望者が取り組み易い作物の年間スケジュール

(イ) J A が実施する「準備時」、「研修時」、「栽培開始時」毎のサポート内容

(ウ) 年間のセミナー、講習会予定一覧

(2) 新規就農者所得シミュレーションの実証

新規就農者が希望する作付品目や耕作面積等に応じた収支の見える化を図ることで、より具体的な就農相談の実施を目的として、1 J A において実証した。

(3) 今後の実施内容

①各 J A の意見を踏まえ、より具体的、かつ現場の実情に合わせたパッケージへ改訂する。

②地域への定着を念頭に、J A の作物部会や青年部、女性部の研修会等を追加する等、J A の特色を理解しやすいパッケージへ改訂する。

③行政による新規就農者支援制度の変更等にあわせて、パッケージを改訂する。

④新規就農者支援パッケージを活用した新規就農者支援等の事例を共有するとともに、希望する J A へ策定支援を実施する。

2. 第三者承継の実践支援について

本会では、弘前大学および酪農学園大学との共同研究として、「J A 青森浪岡地区新規就農受入協議会」における第三者承継の実践支援を行った。

当該協議会では、りんご栽培を目指す新規就農希望者を研修生として受入れ、協議会会員の園地での農業研修を通じて栽培技術を伝承するとともに、園地や農業機械等の経営資源を含めた経営移譲に向けた活動（第三者承継）を進めている。

(1) 主な実践支援内容

①離農予定農家へのヒアリング調査支援

②新規就農希望者と離農予定者とのマッチング支援

③ J A 青森浪岡地区新規就農受入協議会の運営支援

④りんご栽培技術現地研修会の開催

(2) 今年度の実施内容について

①離農予定者の移譲時期が定まらず、マッチングできない事例もあったことから、移譲時期を限定せず、移譲希望者を募る「人材バンク」方式の採用を検討する。

人材バンク方式では、離農予定者等をリスト化するとともに承継に関する条件等のヒアリングを行ったうえで移譲時期を見定め、新規就農希望者とのより多くのマッチングに向けた支援を実践する。

②第三者承継を希望する J A への横展開として、受入先農家や新規就農希望者の募集および資産価格の算定等を支援する。

3. 親元就農の実践支援について

県内の新規就農状況については、新規参加者が増加する傾向にあるが、大部分を占めているのが親元就農であり、団塊世代の離農に備えて支援体制を強化する必要がある。

そのため、青年部等の親元就農経験者へヒアリング調査を行い、親元就農に対してどのような支援が必要なのか、J A に対して何が求められているのかを把握する。

また、親元就農に対する相談が円滑に行われるよう具体的な手法や実践事例をまとめた手引きを作成する。

(中央会 農業対策部)

地域の魅力を発信 高校生等就農体験実施

野辺地町役場は8月4日、野辺地町葉つきこかぶ生産者5人の作業場で就農体験を実施した。参加者は八戸学院野辺地西高等学校3年生6人と野辺地町役場職員3人が収穫された葉つきこかぶを出荷するための洗浄作業を体験した。

就農体験は今年初めて実施され、高校生に町の魅力を知ってもらい、町に対する愛着を深めてもらうことと、町の基幹産業である農業人材の育成を図ることを目的として行われた。

J A ゆうき青森野辺地営農センターで開始式を行い、野村秀雄町長が「就農体験を通して野辺地町の良さや魅力を知り、地元に対する誇りや愛着を持つきっかけになってほしい」とあいさつした。また、今回の就農体験を実施するにあたって協力した、野辺地営農センター山口センター長は、「農業の担い手の確保は大きな課題となっており、今回のような体験を通じて、何人かでも将来農業に携わりたいと思ってくれる人が出てきてくれればうれしく思います」と話した。

就農体験をした参加者は、「農作業をすることは初めてで、貴重な体験をさせてくれた生産者の皆さんに感謝したいです。今回の就農体験を通して、野辺地町の魅力を知ることが出来ました」と話した。



モオ〜っと牛肉を食べて、モオ〜っと元気になろう！

J A ゆうき青森らくのう営農センターは8月5日、牛乳・地場産牛肉消費キャンペーンとして事前にチラシ等で申し込みをした方を対象に、各支店駐車場で牛肉の引換えを行った。

101人が交雑種202セット、黒毛和牛144セットを購入し、購入した方に牛乳がプレゼントされた。



今回の牛乳・地場産牛肉消費キャンペーンは、J A ゆうき青森管内で生産された交雑種または黒毛和牛の部位組合せ（部位：ヒレ・サーロイン・リブローズ・肩ロース・カルビ・切落し・煮込み用等）を販売し、これから暑さが増す、夏本番に向けて美味しい牛肉を食べて、元気になろうと同キャンペーンを実施した。

購入した方は、「地場産の牛肉を食べて、夏を乗り切ります」や「美味しいお肉を食べるのが楽しみです」と笑顔で話した。



JAアオレンのSDGs 2030目標

(持続可能な開発目標)

JAアオレンはSDGsの2030年達成目標を設定することで
地域農業・社会づくりの発展ならびに、みなさんの未来が
充実できるように一緒になって取り組んでいきます。



JAアオレンは2030年までの目標達成に向けて取り組んでいきます。

項目	目標(2030年)	取組み
環境負荷低減 	Co2(温室効果ガス) 50%削減 (2020年比較) 重油 軽油 ガソリン 電力 — 50%削減	①生産機器を省エネ型へ更新します ②ボイラーから排出される「ばい煙(大気汚染の一因とされる)」の基準を国や県より厳しく設定し、管理します ③営業車やフォークリフトなどの車両を電化に切り替えます ④工場、事務所、敷地内各照明をLED化にします ⑤3Rの推進 (リサイクル:分別・再資源化)産業廃棄物を分別し再資源化に取組みます (リデュース:廃棄物の発生抑制)生産ロスを無くし廃棄物の発生を抑制します (リユース:再使用)フレコンバック等を再利用します ⑥コピー用紙、包装紙等の使用量を削減します ⑦会議等でのタブレット使用を推進し、ペーパーレス化に取組みます
	工場水年間20万トン節水 (2021年比較) 工場水使用量の1/3節水	⑧工場水の節水に取組みます ⑨河川の環境保護のため「排水基準」を国や県より厳しく設定し、管理します
持続可能な食糧生産と農業振興 	高齢化・担い手不足等によるりんご栽培園地減少への歯止め	①省力で生産可能なりんご栽培方法の確立に取組みます ②確立した栽培方法をJAと連携し生産者に推進・普及させることで、りんご栽培園地減少の歯止めを取組みます
	食品ロス「0(ゼロ)」	③生産ロスを削減し食品ロス「0(ゼロ)」に取組みます
循環型農業への貢献 	りんご副産物等の活用100%	①りんご搾り粕等を牛や鶏への餌に活用し、循環型農業へ貢献します ②りんご搾り粕や剪定枝を使用したバイオプラスチック農業資材等の開発に取組みます
従業員の健康増進、教育の推進 	健康な身体づくり	①敷地内禁煙に取組みます ②健診内容(検査項目)の充実を図り、従業員の健康管理に取組みます ③クラブ活動等を推進し、従業員の健康保持・増進に取組みます
	従業員の技能、職業スキルの向上	④従業員の技能、技術のスキルアップのため、職場内訓練、外部研修等の教育に取組みます
従業員が働きやすい職場づくり 	ストレスゼロの職場環境	①福利厚生充実を図ります ②有給休暇消化率50%以上やノー残業デーを推進し、ワークライフバランスの向上に努めます ③育児・介護休暇の取得を推進します ④清掃活動を通じ、地域の住みよい環境づくりに取組みます ⑤障害者・外国人労働者等の雇用促進を図り、労働力不足の解消に取組みます



輝き

農林中央金庫 青森支店
コーポレートサービス班
貴田 航一朗 さん

●プロフィール

2020年4月から勤務 大鰐町出身 24歳

— 働くきっかけは？ —

地元青森で就職したい、青森県に貢献したいという漠然とした状態で就職活動をしていた際に農林中央金庫に出会ったのがきっかけです。大学で学んだ農学の知識と、青森の基幹産業である第一次産業に貢献できるという点で、ここだ！と思いました。

— 業務内容を教えてください。 —

J Aの資金決済のとりまとめや、口座振替手数料等の請求を一括集約して本店報告する等の事務を行っています。

— 働いた感想は？ —

働いた当初は、業務で取り扱う書類等の金額の大きさにとても驚きました。今では、金融・経済の知識がまだまだだなと感じることが多いので、日々勉強です。

— 仕事をする上で、日頃心がけていることは？ —

「報・連・相」と「スケジュール管理」は、常に心がけています。

— 特技・趣味は？ —

ゲームが大好きで、「スプラトゥーン」や「APEX LEGENDS」を好んでプレイしています。話は逸れますが、品薄状態がずっと続いている入手困難の最新ゲーム機種「PS5」が当たったときは狂喜乱舞でした。よりゲームにのめりこんでます。

— あなたが自慢できることは？ —

アメリカン・コミックスの「MARVEL」がとても好きで、今まで実写化された映画のブルーレイをすべて持っていることです。アイアンマンへの愛なら負けません！

— 将来の夢は？ —

家庭を持った際に、しっかり子育てに参加できるような働き方ができる公私両立パパになりたいです。



ながいも種子研究会の皆さん

J Aつがるにしきた管内の富范地区は、砂丘ナガイモの安定した産地として、市場から高い評価を得ている。

「砂丘地」という特異な土壌で栽培される砂丘ナガイモは、適度な粘りとシャリシャリとした食感が特徴。砂丘地は保肥力が低い砂質土壌。安定した生育と収量確保のためには良質な種子が必要と考え、ながいも種子研究会を2005年に発足。今年で17年目となる。

同研究会では、20²のほ場にウイルスフリー種いも「園試系6」を作付。砂丘地に適した株間や施肥量について検討しながら、ナガイモの栽培を管理している。

研究会の小寺優会長は「栽培環境が厳しい中で、試行錯誤しながら仲間と乗り越えてきた。努力次第で他の産地に負けないナガイモが作れる」と自信を見せる。

同J Aのナガイモ生産者は、全国農業協同組合連合会青森県本部主催の青森県ながいも共進会4 L・2 Lの部で、最優秀賞を受賞している。

Information

JAグループは乃木坂46の協力を得て、国消国産※の理解醸成に取り組んでいます！特設サイトでは、国内農業の魅力や課題などについて、各メンバーと楽しく学べるクイズコンテンツや各種動画コンテンツ等を展開しています。

※国民が必要とし消費する食料は、できるだけその国で生産するという考え方のこと。

▼特設サイト



催事カレンダー

開催日時	JA名	イベント名	開催場所	問合せ先		備考
				部署	電話番号	
9月10日(土) 11:30~12:00	JA全農あおもり	イトーヨーカドー「青森県フェア」地産地消PRセレモニー	イトーヨーカドー青森店	広報宣伝総合課	017-729-8637	フェアは7~11日の5日間。県内イトーヨーカドー5店舗で開催。
9月15日(木) 15:00~18:00 ※ブース展開	JA全農あおもり	JA全農あおもり食べて応援!! まるごと青森ナイター	楽天生命パーク宮城(仙台市)	広報宣伝総合課	017-729-8637	試合開始: 18:00
9月18日(日) 9:30~16:00 9月19日(月) 9:30~15:00	JA全農あおもり	鹿児島フェア in 青森	道の駅なみおかアップルヒル	広報宣伝総合課	017-729-8637	
10月8日(土) 9:00~15:00	JA全農あおもり	令和4年産米「青天の霹靂」新米発売記念イベント	イトーヨーカドー青森店	米穀流通課	017-729-8636	

後編 記集

日本では、旧暦9月を長月(ながつき)と呼び、由来は、「夜長月(よながつき)」の略であるとする説が最も有力である。

英語の月名 September は、ラテン語で「第7の」= septem に由来するが不一致が生じるのは、紀元前153年に年の始めの慣例を3月から1月に変更したが、名称を変えなかったため。

学校年度や会計年度は9月を採用している国が多い(アメリカ、ヨーロッパ、中国など)。9月はその年の12月と同じ曜日で始まる。

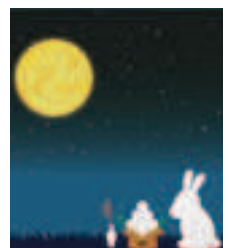
2009年に初めて発生した9月の大型連休の名前は「シルバーウィーク」。珍しい連休のため「プラチナウィーク」とも呼ばれ、次に訪れるのは2026年といわれています。

明治33年9月11日、東京の新橋と上野駅前に公衆電話が日本で初めて設置された。当時の電話代は5分で15銭と割高です。

以上、9月についての豆知識でした。

それでは皆様、「SEE YOU ON OCTOBER!!」

(一)



ホームページアドレス

- JA青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・JA情報などをご覧ください。
- JAバンク青森 <https://aomori.jabank.org/>
商品・サービスのご案内のほか、マネーシュミレーションや全国のJAバンクへのリンク等をご覧ください。
- JA全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- JA共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp/>
JA共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。